頭書
和漢女禮式
幼

女定制作所

御家流女勝方

女庭訓御所文庫

万長教訓女寶鑑

總目錄

文車
式紙石之の部
源氏香の部
源氏和歌風俗の部
八家入の部
秋之部の部
婦人女子の部
女儀の部

九曜文庫

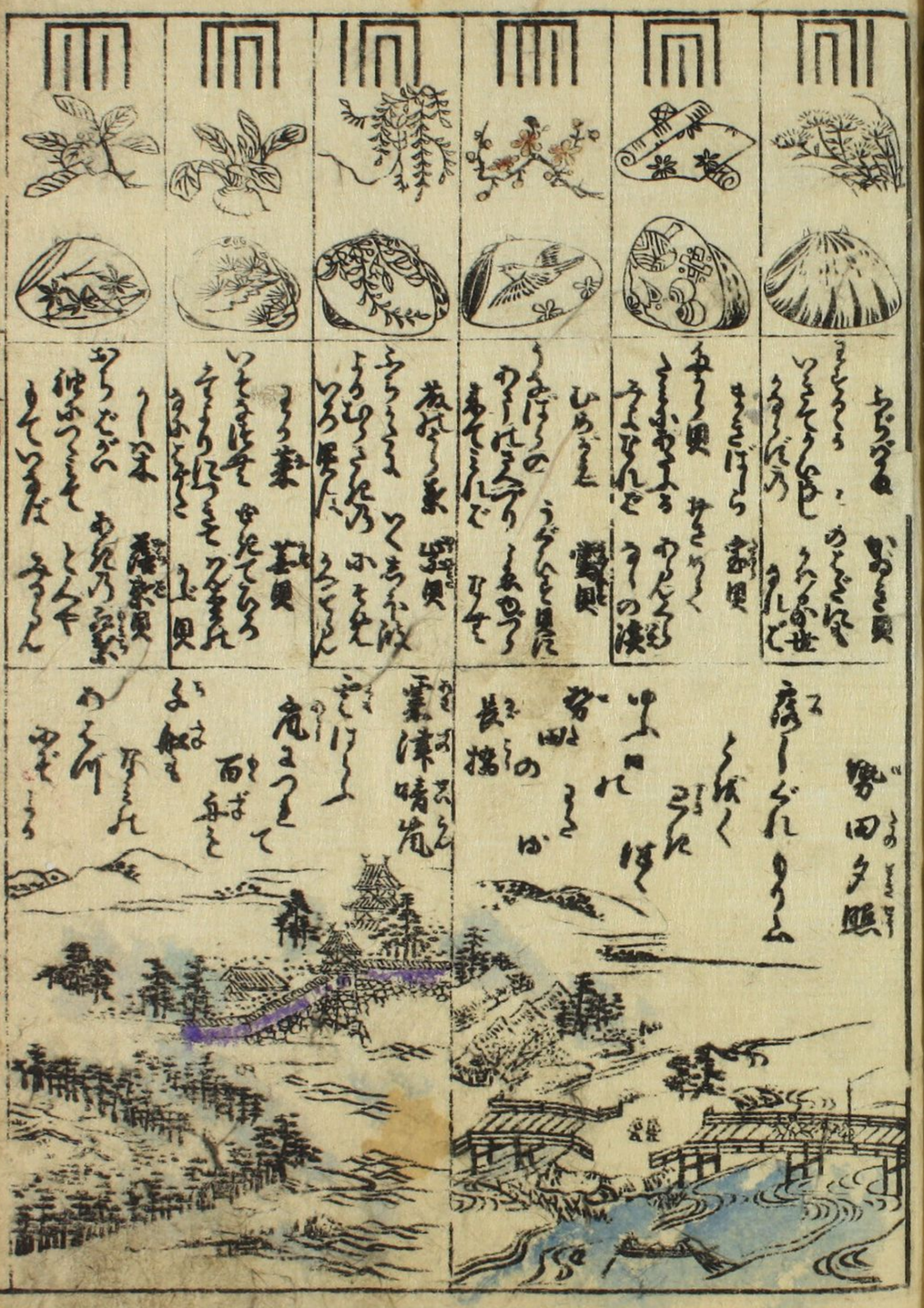
浪速画生
月岡丹下昌信圖

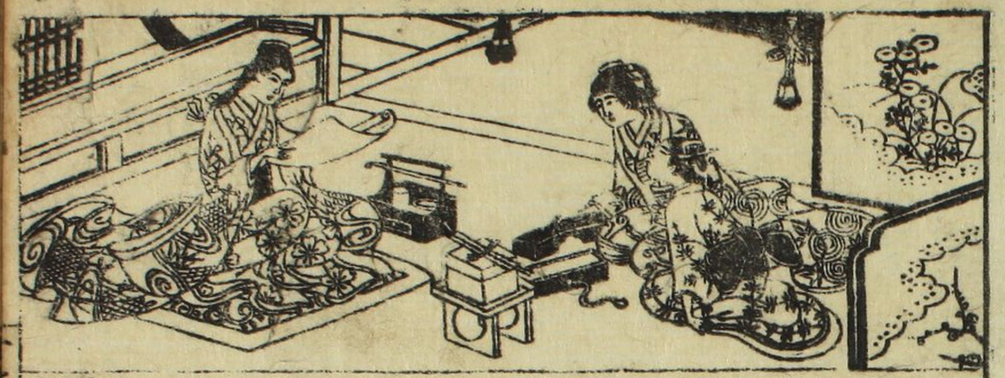
紫式部石山記

源氏香乃図

源氏夢和歌

嵯峨天龍寺





女庭訓御所文庫

年の始は祝ひ事

さてさて面白きことなり

きたりそもそも元三の

初子目ぬひしくわう春

さてさてハ祝ひ事小松とうん

さりゆく民のこころめり

女教訓類

女のさがうつくしくつくるこころ
ばかりにて雖のうつくしくつくるも
なるべきなり時うゐ中しに
なるべきなり終をとる
うつくしくつくるひとは
七才より十五あるいは
十五にいたりて男ごとに
あるべきなり
さて男女ともに
さうしてこの四つの
ことをかりそめ
にもうしなはず
ひとりゐるとき
ばかりにあらず
人のまへにて
ものいふとき
ばかりにあらず
日も
夜もさうしてこの
ことをたゆまず
なすべきなり

才にうつる又あるいはこの
四つのことをうつるこころ
ふかくして我親をうやまひ
ふかくして親しつかへ
ざるべからざるこころ
時にうつるべからざる
ことなり
うつくしくつくるこころ
ばかりにあらず
男女ともにこの
ことをおのおの
とりこころ
わすれざるべし
もしこの
ことをうしなふ
ときは
人にあらざるなり

おりひめ七夕の事
ふんいまてろうそくを
ぐせをまつりあと
しまうてはなくは
つりびくてんん
此時よりのぶ
こ

七夕祭り

おりひめ并　女文字所始り

女文字のはじまりこれ
ありけりとい女ものこと
ばをあつめ是をいろは
とおもへるとのてをとつ
ぐ　ものとれうりもと
をしかるとこれをいろは
とよ稱ずいまよりに生ん
まうこそうとこいろは
ぞ　ものとあつけて法
師　なのるよいろはこの
ふるとは平七まるまでのかに
ぞ　ものとこれとあんをり
いまいろはさ人ものおもれど
ひられあんをもうこと
とよ　そむれのとあつ
たるおこれ　ものとあつ
つ　ものとのをもて
ものひれ　ものとふまれ
いろはうまるのひ　ものと度

中勢

陸月八日

俳諧のあそび

しきせん

新五の嚴島参り

ちくこたこまてを

てもまけやてんんとぶて

くやも更よあづうい。

ねのびして初のうふ
あそびいのまとおれしは
ゆめにいけるに時ゆ若
繁そだち。初いりせの
かしひとりして八姑ふつ
うるす親のごくしぶ
とあいとふ乃繁すし。

その
あの
あそひ
すしう
ふくく
の副
で

おりくもくる
春中花盛ふ如し。
乃ち是而ハ女の如し
てんちゅうくいおりし絲の
そもそも書を重ず
此遊くをかうべき。
そもそも人のたやをく

「ゆうはたぐる而ふあるとぞれ
東之の花ぞ人をそ
ぞ人はあけなの中人
同人はくいひとりご作
旨ゆくこちをこ
く後ぞ。況經冊をくハ

紀伊

小あが根原

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女信ひろ寄り

人でこれをふれしとそろそろ入てちらちらと伺ふてもふるさえ
匂ひあるゝそれをまつてふとところ
ろへ入すぐれたる花ばかりをもとめ
ばかりをもとめ
ばかりをもとめ
まことにすぐれたる花ばかりを
ちらちらとさしのぞきたるまゝ
ちらちらとさしのぞきたるまゝ
そろいそろひたる花ばかりを
そろそろとおもくとろと姿
きりつく伺ふてもすり

もり前ハ此さうぞくハ樣の
ゆくさまハ裏山ハ柳ハ此ありの
樹ものゝ
用ことゝ
こ
ゝ
神よいのる
家内
紀伊
小かね
清水

丈人と伺ふ妻ハ

▲あいの山ハ此ようにとかくとかくの
おりまハたのゝ
と二人の女わらハ丈人ハ
のゝ
ゝ
ゝ

このあとこれをいかんとかとしてこれをうつ
てしまうもそこらのもくろう
くるこそ
まそ
たもしかのもとへ
そのごくたまのごとくして
ておくまんをもて
ぬかびのぞむ

あさくきさるあそびの浦山
しくほれ捉だくあ
まれ
民乃いかまいハあるへ延長
天暦の聖代ハ新
と悦ぶ
いよく家門さうしさるの孫

ようへ
しく
ひ
ふ
ぜ
されるこ
ろ
ま
ま
ま

ぶくめぞそれをうしに
ありひりし宮賣
孫生る　夢つ蓬
ちんこ
このやどの四前さま
伝ぜ　ぶくぶくあくまの藤ゝ
門出をしてハ四ゝ出れ
をぶくさいとうやうに

これしてもらくに出ずいとせ
んとしのひとをたぶる
ちゝとくめのひとしとと夫
人よ若さをのひとれ夫人
もふをうれをひいをなるる
ぶぶけうこれをこぶそ
ぶてんどのそのうとあり
まゝあてもこのへぶうせ
うもあるとくろろこひ
のひていのくかうくよつ
くのひろこうんをしの
ろくこうつんよろうころ
いゝふのぶをまろぶをく
うぶをといるるをぶ下を
のとひさいゝいたるひま
ろぶうこうをとをもうを
のぶゝれかこうれこうろいう
くうどうをこぶさにのぶに
ととくんくうんゝいひろ
ととんろうべゝ

ひるぜきそうひ
とゝるの
田ぶんぜうが
しゝ
ありれみ
あゝて

ふゞけるを
ハりとを
かりて
ろ代
くろた
清代と
ぶ小

うらうつ。富士の高根
にふる雪。三の山のこと
[illegible]
はるかに。雲井の川
さわくなる。わたつみ
なる。名づけたるなんむ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひろもあーこれどちと
いふこつこうとあり神こ
こよおんらんこよあとこぼ
ろうとに河ひあこうみよお
どうこのどちこよあとう
ゆこと七こあこさ病ありう
これとあるそちれ西こうハ
ろう神ここと光ことをも

大和国宗教科者松宮こいて
而ふ仲義こ妻こ子こいて智
者ハ国朋数まそるひあつ
まこ浪ゆるこゆきちこ河大百
無く万民のひぐさあこ人
あるこうこ和こ仲義
和とりこのこ義きり

ろうこ子れちとのあこ
とまりうここあ一あうこ
ハ河くあーこあふられと
いこんーあこ弟ふにあるる
ばうここそいふく勇姑よ
流ろうるここうちで報
ふーこここりーたこに
ばんあうて女家と元信
とあろうせろのこそのの勇女
のこちとひろめあこれ安
こゆここうりーこうこま
ここびうせのひこに家と
んてこうハ子このくふ
こうりここくやふが子こに
ろうこそひろあこうあこ人
あーこんうこ河と手和こ
ろうこ元のせこちるこ紙
ろこ人ハうそれのここて
てふあとこーあこうこ元
人ハこ河くそーるあこ

強ハ大こ
ほるる過こ
世而ハ本こ
とこあ又こ
で清ふあ
井といハ色るこ。而ハ
上人の撰集抄小記を伝ハ

郡界ヶ嶽後人物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらぶれ五のぼうもん
うらとのくぼふゆうを
ひやりとのせて宣旨
書まる　人のくち間
世つまり　ごたぶく絶
るびつぐ　とれると遍

つのれ　ひつまり　ゆうり　今
ゆうてそ　たよ　ゆうり
るとかめ　ろ　今ゆよ　ゆ
つまと　ゆ　てろ　たま　ま
ぐんこ　ろれ　つま　ぐん　いま
ろふ　貞女　のいろ　ろう　女
のく　くろ　ろく　くら　ろく
たこ　ま　のび　たま　ゆび

骨婦人我子を捨の

捨人中ゆも家とろ　ゆ
るゆ　ゆ　ゆと　ゆ　ゆ
とゆ　ゆ　ゆる　ゆふ　ゆ
るふ　ゆ　ゆる　ゆふ　ゆ
ふゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆる　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆる　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆる　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

女乃礼を編じ九嬢八女の
親みけうえん恵よ
つくべきことおろこ
りのこれと
ぞ志
及ばくも

あひきまりく物の孫
ひりし四国あそへ
まで。廣志は巡恵
よひそまりい完
りこ
和月十日　たゆ
さいしのら

廣南魏が妻の事

りうこうくんのたてそ
ふうこうかきとりてすのつま
ハんとそこうたい妻ふうこう
かきこうかく死せりつまの
とりいまこうまうこうそこう新
こうこうふうとどれこう新
又どうこうこうとりて人あり帝
こうこうかうこうこうとりて
ちゆこうこうにいろうこんこうか
らびかりこうこうこうこうかき
かつまうこうこうてかりあこうり
ちうこうこうこうこうりてこうか
とこうかうびてつまにせん
こうこうむこうかうこうこう
百でこうこうこうこうこうこう
つこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう

大事よあるべきりて。立
ものとなるもんふりけ
無くしたくいぬ泄とそ泄文
ものでいたくいたそまこ婦漏。
婦密姦言。数切そ。初ふ
婦漏こくハ柔順貞言
とこうあて。女ハ色ふそむ

つまとこうもうのどこうこ
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこう

ゆ男一のあこきつこうひ
そこ男とこうこうこう男こ
男こうにこうこうこうこう
人こうこうこうこうこうこう
人こうこうこうこうこうこう
近こうこうこうこうこうこう
そこ男こうこうこうこうこう

ぬくばかりくべ
うこびとうけ如何ぞ
とりと眞実中に忘れ
ゆるす作のごとく
ようくよくよ見
幸ありて後世の級
くいたうられ

人とうりまこれが人なあ
ぬくまこと男ふんと
けられなすする少義
程なくさゆくある
と学といへ我夫と主君
とおりひやくだきて
と乗順といへを夫の

孫いしゞ姫の

こくてこれ孫いしゞひとり
そこらろく十六の時さう
ちんけいこいふものつまに
なるさんと祝これをやくそく
をりもろるにいまさにまを
ひろぐるさんよろうちん
えいやまひよりてむの
くるまろ孫いしゞこまと

冥ふかなりて物よさうを
やうぎ者さうぐ又げうら
うきさものとじあるひさ
もろうるゆ人眞ぶなりさ
まじ女ぶんそうぐし記て
ハ男ぶ不義ともあるこむ
ふるものるり又藏ハごく

女さうにんはまつぐんはあの
ものはなはだ人をとれ
らるべからざるなり。
とは孝子の名聞あるべ
ぜつの中に文字あるごと
くあるべし。婦容とは八方
のうるはしきなり。位よりも

福よりもひとしきを
ひとおもひ無小出でしりくい。
すぎ
色をもとる不是なるも程
小四ぶんびとにしたがふこと
うひ。時おりよろしき事にて
い。無言にて物いはるるもの
い。無言にて人のはたらき

でいひひとつのものをうしろ
ゆるとこをうにあげること仕の
ふるまひをうんやたいうする
りのふるまひをさうゆくとを
ろんといくむしろのうちにて又
ひとつくこうひまをとわろとも
ひとこびあつくいかをとえ
ろうもあるとまくうをうとそ
いまこうこさりん中といへて
とあつくこうとこうこくちう
うくてそのこうちうけいうの
ことくまろうむとあつこうん
けいうあるゆくこをたるみ
ぐそのあつくこうむりそのち
ちうとまうこうあつこうつく
くことあるうまくむでんぶ
とそうあつくうくとあ不二年
ぐそのきこうめーけうんまそを
ところうどくこうまるーけよ
うけ奥妻のをとおうこうう

そく此者の屋つる

▲あるときにいくもろこしにそくこのかのうそうとうをのくんのさとをこーそくまもやりそくのさとをとくんはそうこのこのこのさこをこのこくうしこのこのこの

脳を抜る別者の

▲ある年にうそいとくそのあやうきうつくさ
さえこのさまをくいつくさりあそこびおこさん
ここさりふとりをこと
とべーこうべのあばさ
りたるくさのくいられ
ことといでうるふるこの
まつるあるこれをあうそ
ここれのていさあうと
うつまいてくあそびさ
まひたさのの門のうふ
そーとことをるこそ
さうのりおでーあこう
ここれとそのこれあを
でめたるひまこをう
ようふうこあそびあを
きるくそれひまに大あ

ひ小者ら七夕ぬ
ち遊ぶ
にくしびん
ひくふさへ
うけまてこのでふ義
よひ礼あくろく。

おるをあうこう大きに
おそろえくとつろて后と
むひひよつををーやいこ
つくいそえろくまくと
いこさこえのこまろくこう
ふとのらてこれつを
ーやくいそえーふう
こうふとをとをびーと
ーにこくあひこれはの
くこをあうこうよく

柳文若ーはこうはるはハ。
親こつるをとれこえ絵
ふよひをくでそれを
うりてでまるはこぶつる
ちをこハるくぴーー光と
ーこのよみこで沖る
あまこおこ海名船

くあり日ろふるくハ出る
とあるまーを一見いろ
あるとでにさうあるいそ
まんがいいのらあるとを
ひとさこれそくまひれ
まうこのおりせよさひ
いでくいのらたをうあふ
うせんまをうこれやいみ
そむんくりいまくるが
まーありとのくまひそ
くまろんつひせんうこく
いそれくをとりふとち
ろくるあのこにみこう
こされいころっよおれく
まくくまふまをうこう
えこにあげこたまく
のらくれくをていひに
えこりまこにたびひ
まれでひせんうんでる
まとあまりあり

宗元の妻石義と寿の
ひろてそこうとあこ
の石義こにさいしかるひよ
そこうふされるこのまを人
うるにり所の義れるいさ
つをありて石ふにわふあ
ひあるれ石のちひらまで
ひとりすこうてあけこて
しのふ身をこう女あるれ
いく石をんうるとあこふ
いれとあにてうこれまふ

天下其分民をこと
まひしんぱく親より
くあるこのこて有こく。
ぐ志ゆんこそ田とたがや
ろうものと天下者一の
親より申ぐくなりとそこ
まにてを下とゆうこま

毎り沙仏とうやまひを。
親代うやまい礼とりの
あるこ中ひ兄弟とむつひ。
とともにまこまこ
親こにを礼とうつ
ていうこひそしよ聟と
舅とのかりめハあくて

秋胡子が妻の事

▲ものつくり[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆいあらうこと

卯月十日　さいしう

たゆの房どの

端午の日は祝として、ひざうも

粽五十把は、青と赤と二種、しかも

くくりちまきのくくりもの

くくりもの、ごまと磯

ふくしゅ悪鬼とくらふと

本文まことにゆゆしき

ぞくあくにしたがひ

りんぷるひつぎのもの

ふぶま場へおもむくおか

のこるあつまり謡射と

僧しゅ御堂の

馮服儀礼の事

うちくつをぬぎとふん張
をなくいはうそくぶ下絵
物源あの事も数を
上をのさまで祖父べくい。
四厨子の黒柳のかざり
中の四枝の梅をうけ上をい。
百くらかのうつ水

うちくつをぬぎとふん張
をなくいはうそくぶ下絵
物源あの事も数を
上をのさまで祖父べくい。
四厨子の黒柳のかざり
中の四枝の梅をうけ上をい。
百くらかのうつ水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中べ。姫瓜とうさ
ぶ。ひのし。月見。ちくさる
ひのし。月見。ちくさる
祇代。ちぎ。いりせ。ひと
長。ながし。秋風。ちゝ。ちゝん
ぬ。ちゝん九月。重陽
ちゝ。嫁取。の義と

こゝろひゞきをうおうふ
ひゞきをうおうふ
ぬ法をうけてこゝろをひりし。
浮れ續るもの幸ハ弱る和
有もしくん仙れるの作
弱つりうし。樹又男も
如も志法けけ他はと。俳物
屋のうもしハ公方家乃

今ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

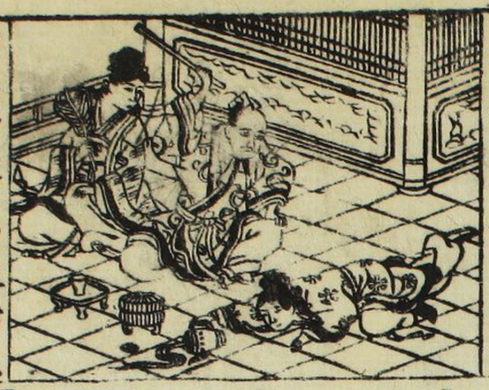
紙屋のあんのごとく長びきそのあとこれをまきこんだとのことのこと〜〜〜

こて至国の掘ざるを小さ
あつ下は竹を八つつぐ耳
だらいはのを洗たの用足
金そうを紙程要し。
はもの
桶とあるを八はものを
ものは厨房に八ら

明りは奥桶は遠桶は
里上の重にみ野下は
ま第とき内へ大を
はの入れ。嘉くこ
とるはて、ぬ
宮易人を
あつ。書付さ

主従夫妻不義ゆゑ

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢土呂后の夢

[illegible]

[illegible]

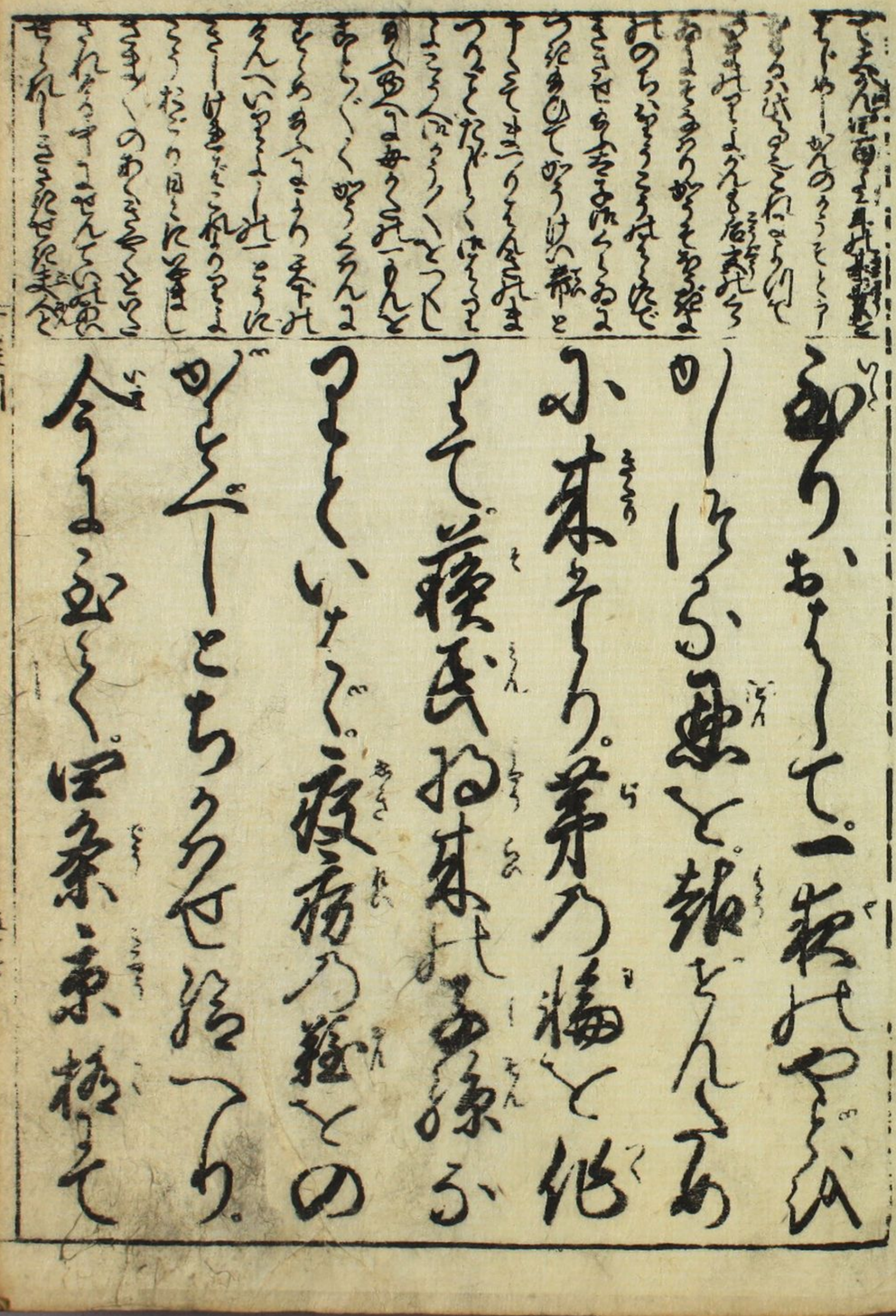
[illegible]

[illegible]

[illegible]

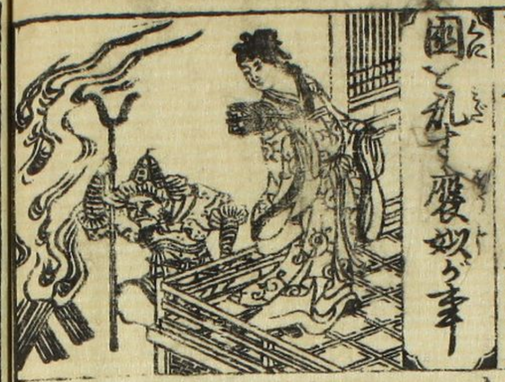
[illegible]

南海の海賊藤原の純友
石よりやんとてよびふせ
きたれば藤氏の末の
宿禰よあはれと
業の仕神となりぬ
はるとなく八月の
神とぞ藤氏の業



和りおもひて一枝はやぶれ
ぬ小末そり弟の梅と他
つて藤氏の末の孫ふ
つもしいけで夜務の藤との
ひとぞしとちりぬ
今よりは北条東極て

栗田佐渡と申す侍、養氏
の家の中老なり。今年七
十歳。
養蔵のあるを八万四千
六百六十貫斗あるとしるべん。
次に城内にて佐渡と藤へ
仰られて、さもとて
中老の屋敷に行き、佐渡



つねよりそのでうこんをとりこころをれんぜんにして
しことをつとめよ若人ども
あるをもてやすんじ
のこゝろをもつべし
たとへば
きさいにのぞんでつむぎをよ
ぶべきうつくしきをとこ
でもあるべからざるなり
國と亂すべき奴ども
ぶ

秋の月のうつるのをく
風は毒にたとへ
くるまさうるに
り物をもつ
七夕の乞巧奠して星
に女のたとへ
おもをたに

▲ひとりをもつれ
こうこれとなりとそなりこうきしく
てはこゝろをたのしんとをりみせ
いえんのはとくとおもうべ
えのまたこゝにはなすべ
ゆ大日ひるんまれまひて
れよりとくおさまりはるまそ
来縁ゆうこうにはのてうて
下とこゝうひまひしはをし
とのふをしかりをひそをこ
しこゝをこれとしてなまひ
ゝをこれでしれをいこゝく
とをおいこゝうひまひてひを
らやしのゝをてこゝうあり
まひるあまりのをまのろ
くはこゝをまをてをしと
をくをこゝろあをるやしろて
をしこゝをまをいこゝるをこ
したりまをまをしをこゝ

なるまをものゆう遊をき
しう。茅の蓑をきて舟
をのぶ。琴二張を
おく。一張はたちと律よ。
法は呂よりたくをこゝをこゝ
清水と入て星は紙を結
ひろ。又作とをこゝをきり

庭よりくだんの糸をせ
筋づけて紙に貼付
け糸よりぶの糸をとり
ぬきつ又先をとりあまつ
ゝ
ふくおもてをそろだなさ物
ゝ
ゝ
ゝ

南風嫉妬の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕の祭りふへあんぎん祈
あんぎんこうまつり
とうわの紙人ごよいさ
せ面りしくめそだき事
ゝも其の六百様こそく
とろもふまでいさ面くよ祈
ひこくくや作りん。
十五日と西蘭盆とも

仏の門に参るし同道こそ也
しかるに通力とうそ無なく
もり出まいゆく所と人給
ひしよ。餓鬼乞ふ様式
ふ者仏の。佛よまうて
とうひそ所ぢうの色
とうしとしくこまく

おこしひいその法先祖代
まつりやいたのうあまつ者
とたそ。燈と云ふ湯の
なまわと清酒と共く
ぎく鬼はたまりの清
なる。花とたく燈とのけ。
菓菓子味とそ明かや

中勢孝行の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

先祖をまつるかうの木乃
松と申すごくこと程
蔦面の時ばかりなく
しく

永日新日　京極
正親町殿
八朔の祝儀とてぜ

ふ丈程申程一尋ばかり
長さ三寸ばかり久しく
かりめ社のかくれ木
みてあるべし新しく造り
あらべ屋敷門こうもん
清さ屋の前ふ様う、
ぜんおまふけ菓

袈裟御前おはす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきこうたいとひとうのませ
ゆうりんはでひみことひこおそ
うれいまうはるにものびてまう
りんとところゆそのうちあ
ろうをしくかてこひはんにうく
のいすくとうそてうてうるとをふ
そうりまてうはてこまやうはど
どれをれはこそうりととよをこれ
まうろこび目のうくとすちあ
たうやうくそのうこうあれ

南部朝日　あさ
長東屋　ゆう
清八ゆうはれて八兼し。
しらくもひとつ　ひとり。
たそくこのつゆ　ゆう
日ゆうはれてこのあさ
ひるはわとそふひまり

小姫の事

今をそれいろとひろかに書おんてんかとれゆきこ父の名代やさうりひこれはしとるにく名りうてんかうわるまこまろ三月三日ひとうみくまこ三月三日のふたんりりくびくそうりんて

はいとあくこの和はひこさけう
ゆとも出ひまりはまこ
くハ法父年こ水反より和
まこのひ法も秋毎こ長月
九日こ黄金をこもも
こ年ごこ日ハ縁ふ面人
ゆ。雲こ人ゆこハけば

りぶ菩提とて絵と云わく
赤く黄なる黄なる黄なる
うくぐさ稚つくこと
めつるあこと花と黄のこと花
わくとくやいと去るさいハせ
んざいと今もいと嫌おうる
とりしくとりしく仏

一
ものいはんとあく一
枝とりしそもいく人
黄なるひらまさり
いろいろまさるや
無て黄白とやまる
いそれくくそれやく
わくさいとくりい

狭種姫のこと

[illegible]

[illegible]

長月九日　如しさ
大いのうりゑ
作のごく八今は新長ハ
清水い者ひ花籠源
そ女人の仏あ長いし。
抱波女品より人八法ひ信
じえくひうしに長ま

つていくこれとろも
ばらばくーりして天ま
の孫ろんと紀ゑそろふき
ーこころーたそまもくく
こかひこれゑここ世ろ
ゑろろろろこうろひを
ゑろのゑそいろこと成
ゑろのこ十月ゑ天ゑこゑと
いところふこゑ見ゑくく
ろここれひこをゑとて
ゑろひーゑろくこうゑ
のゑくこゑのとゑふこ
ゑこれてこゑれにゑれち
ゑるふ天ろこに国ゑそこ
ろゑくこで今ゆふろ川
くゑ見びゑてゑんびび
こゑーこゑろ人ゑゑて大ふ
ゑとこのここそゆこゑたる

[illegible]

九日菓子とするといふ。

[illegible]に費長房といふ人

[illegible]

仙人[illegible]。仙人[illegible]植茱萸

[illegible]

家[illegible]ひとえ茱萸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゅうとしゅきょうきょう
仏といてるの。末の世の人々
たちばに。三月初日。三月三日
五月。七月。七月。九月九日
月ごとに。ふ月。
日と行者。いづも湯
月日そい。法の
教の

おかさでらの。ごうけ
ちゅうとてわ中ゆえ
きくしのくるとあさうち
くるとしてとかさりて
うしたるつるまてしてこと
るかんぐんハやこでうかう
ぐくひんがれるかんとうと
ちよてうにとぐること

えさろのの仏法そ中い
とりハ老ゑ中いたゆうさと
いてひん中ぐんハ法ゆうめいん
ぐうまるいたまハ業師乃
十二神の中一そい。十二神と
中ハ業師ゑ変化ゑい中ぐんハ
業師。ぐうに三人づく十二神

そもそも天地の間にあらゆる
生物の本末を業師業
のいとぐちをあらはすべし。
生成ひとつ。ひとつ。成ふ行の
ありさまを。初中成就
女人と自然の理。

いつれも陰陽の二気にして。
中ほどかたえさかり衰
男女ひとしくなる。
天下の男女生まれ
ありしたがひ。屋
敷同じくやまひ。庚
申と甲申の日。男女さい

挾秋姫石と狐夏

あいとして二人が
ぐらす毒にて年をとせ
命みじかく病ふ
成ひ。ある夏だひさ
ぐ海つ人ばかりの一生の
間病んより。登人今大熱
人ゆえ。むしちたり

ちがひ中さあるまさるひ
ゆ。紙くはけくしこ
夏くひ。月ゆそ。ちん
侍のち。中ひ天王寺ふ
てひ今ょ庚申堂あるを
縁起よ育ちを見ひよ
一枚もの紙ひざし

延命と祈ひ祈りうりうり
ゆくりとい夫婦の
明くひとりさ寝給人
まじ犯だ慈悲ぶかぐこ
そひ。未の老乃人歌事
子の刻ちあく毎日ぶら
ぞ。ちうちうちうる

もあり。又庭前のうこひ
のまばあくる日はやらず
とくいわるもの。是ハ程
よくしかくなる。然るに浅
ゆるもしくまれなり。
九月九日　ひのざら菓
おこうとのらるゝ也

里俗玉くしげ清貧
抱。今ハ久
あるべからざるもの。
丹波の國野勢といふ里。
今ハ世ありてきとゝ
なとゝくしたゝ。
いとゝ世俗ぶとめぐる

ありつゝ世をとゞめ門より下
さしかゝるべきて送りしに世
法師ばかりうちくゆるまで
くるゝ人もなくかなしうさび
ものこと僧女ども寄合ひ
こゝにやどり人のうへはさぞ
あるべきふぜいなるべし

多くうり。蕎麦切りこれ初めてとハ。
ものくうとあるうまもの。
その人の仰せもあるを
しるべきあり。
てあるべきこゝろばへ。
末の世にはたれ人のうへを
とゞめ人のまねびの

一とあまたび小笠原とく
しくしのかくてうそくしの
ぶ
ぶつてしまたび聖人もも
てびとを有ぢ法と
しまたび大悪人もも
ぶの法ものあれば。

いろりてこまたのあのこ
かろうさてふのれ
風ふむ
りくさてふ
さてい
ちびれのさ
くにろ
れしの
てのの
ろ
ぶ
ぶ
ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女小七つ以後の事

女のさいしきに七つ以後の中
みにのさうの兄女さうこいの
こまする親の肉に見はは親の
ゆるしてはとりのまこにすら
すやさいはさどうのひがし
ゆるしてはとりのまこにすら
ことをしてこそたのうしたこと
きびつ兄めとりたまはること

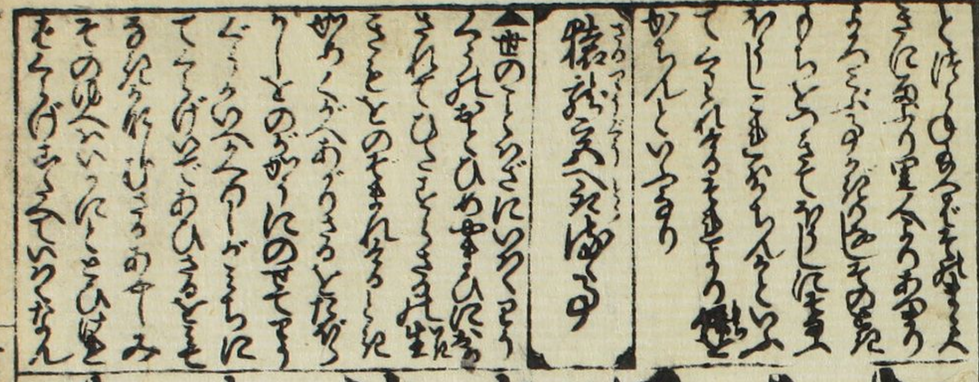
姑とうふうして姑よりたう
ろくとしてはやとまうとあり
つら姑てしられ礼と賞くハ
人の形をもぶし書類こ同じ
ひとすべく男も女もひとら
ものを形をもとまひて人をあ

世の中ふけ年八氏の
年ゝ流るゝよ雲井
の庭たるかゝ姿
いつも世月中の卯の日ゝ
らるゝ人ハいろ〳〵事
さゝ梅んうるゝよゝや

かうん　の　姫　の事

▲世の〜のうん　ものしる事
ふるまふ　ものしらぬ　大ふひ
とうあの　ものざるの　とをく
あり　山里にて　ものしる　事
ものしらぬ　とけ　ものるあと
ものしる　あと　ものしる
ものしらぬ　たのしみ　ものしる
天の門　ものしる　水はなる　ものを
あるものの　ものしる　ものしる

ひとよ　ひろう　ものしる
ものの　ものしる
ものの　ものしる　日　ぶう
ものの　ものの
あつ　ものの　ものんぼう　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの



▲世の〜ものざに　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの

稲荷の天へ　ものの

ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの

天照大神は當新嘗祭の時は
月ごとに宿直とて廣間に出ハ
天子の田小出くぐつを
さ料しそめ給ひて殘を
民のちからに仕雇ひて后ハ
まゝ姫ゝ子の日とて
ちゆ神佐と天子も后も

うつくしきをあハ敬姫の
前に出下さる民人ハ已に
ゆて代ゝ代ゝ代ゝとて
ゆ代ゝとの心とゆて神
とゆふよハあるいそのゆん
おうもあんや天下とて
つんハ四海に稚て賛嶽合とて。

四八 禍の門と云ふ

衣食住のゆたかなる成
てくらしとなりぬれども
あし黄八男女作りあのこ
こびきりの女と八曲事ふと
をひ者をもとめ妻
をもとめ子のかくり
をもとめて民八人をひろふ

四月儀式の事

ゆるべ
とゆ
しく
又ま
をろ
て
人
和

▲四月一日ニ五月ノ祈祷ヲ始メ
ル事元旧元年元月
ヨリ始メ氏令ニテ定ル事
ヲ云フ
▲ヲ産ノ時ハ産ノ
ヲ産ノ時ハ産ノ
ヲ産ノ時ハ産ノ
▲ヲ産ノ時ハ産ノ
天神七代地神五代日月
星ノ三ツヲ
テ祈リ
▲ヲ産ノ時ハ産ノ
ヲ産ノ時ハ産ノ
ヲ産ノ時ハ産ノ

ゆ
ま
和
賢
ま
ま
和
作
ま

霜月十日　きげ

小ぐらよしはげ〇〇〇

来十九日より年ごとの

法華経おこしもしいと。

ものしびとなかにやとくれ

三つの仏の名をとなへ

給ふときは六根のつ

とぐ〇〇〇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月二日祝ひ

ある人、花川へまゐりとしゆるふかうに日くれぬ
ゆくさきらとまぐばぐるふ
こゝ一火ゆとうにんゆうた
てゆゆくそ月まで日ごろ
あうしとおりあとうふ
ろうこゆふまびくまいば
きうくまんいあのゆど

ぐ
ゆ
ん
ゆ
き
あ
う
こ
く
ひ
ん
ま
ん
ま
ん
ま

三百年ゆまり[illegible]
[illegible]
[illegible]

江書いの絵ハ黄色紙
書とゝとゝまのゆくまきさ
黄かゝとゝきゝゝゝゝ紙
緑とゝゝゝ白とゝ黄ゝ
まゝ紙黄ゝゝ白ゝゝ
れまゝゝゝゝゝゝ
田ゝゝゝゝゝゝ

ゝの紙と色あひよかゝり
ゝゝゝ赤黄のつまハ白黄すて
ゝゝゝゝゝ三ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハ和ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝるにいゝくのゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬ日なれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

たなびくひとすじ　こんりう
ひかりとまつるそうめんハ
いとかぐるまらめんなり

二どちらにてもこれをいとかぐるまらめんなり

そもそもこれをむすびさしなり。
さてまつりてこれハさ
んぐきとゆ中ごろ
ハ面白き。黄色ハ
さる色あり。黄色ハ
くれなゐ二色にて海そう
と端とをまぜあはせるなり

いまこゝに天下ゆるされ七月
七日ハ織女牽牛会水とたて
とり毛をさうぞくし
毛とかさねて川ち
ゝとかりのひ女おりをれ
じゝをうせんとて織女
日あり

九月九日祝の夏

今川名人ものいふさくの
山あり九月九日ようるゞ
さくとをいかれいづる川
名人ものいふけんもの
いづこ百里之百里をぐる川
むかしハ水ありて
とをとひ人いまも
三百さいうまくこの三百よさ
いまでもたゝ川とうり
ぐこうといふものはさく
ものゝそのこふ

濃こるハ人ものよはあり夏
とをいハ人ぎきもゝぞこと。
とをいハ赤ゐ色ハ
ひうるをこと深夏あり。
むしこ中時ハ
ようけ
なつ女ぞくあゝ

うんぜんの行てこゝろ九
七百よさいとあるこゝこの日
きくとをり うんとんたく

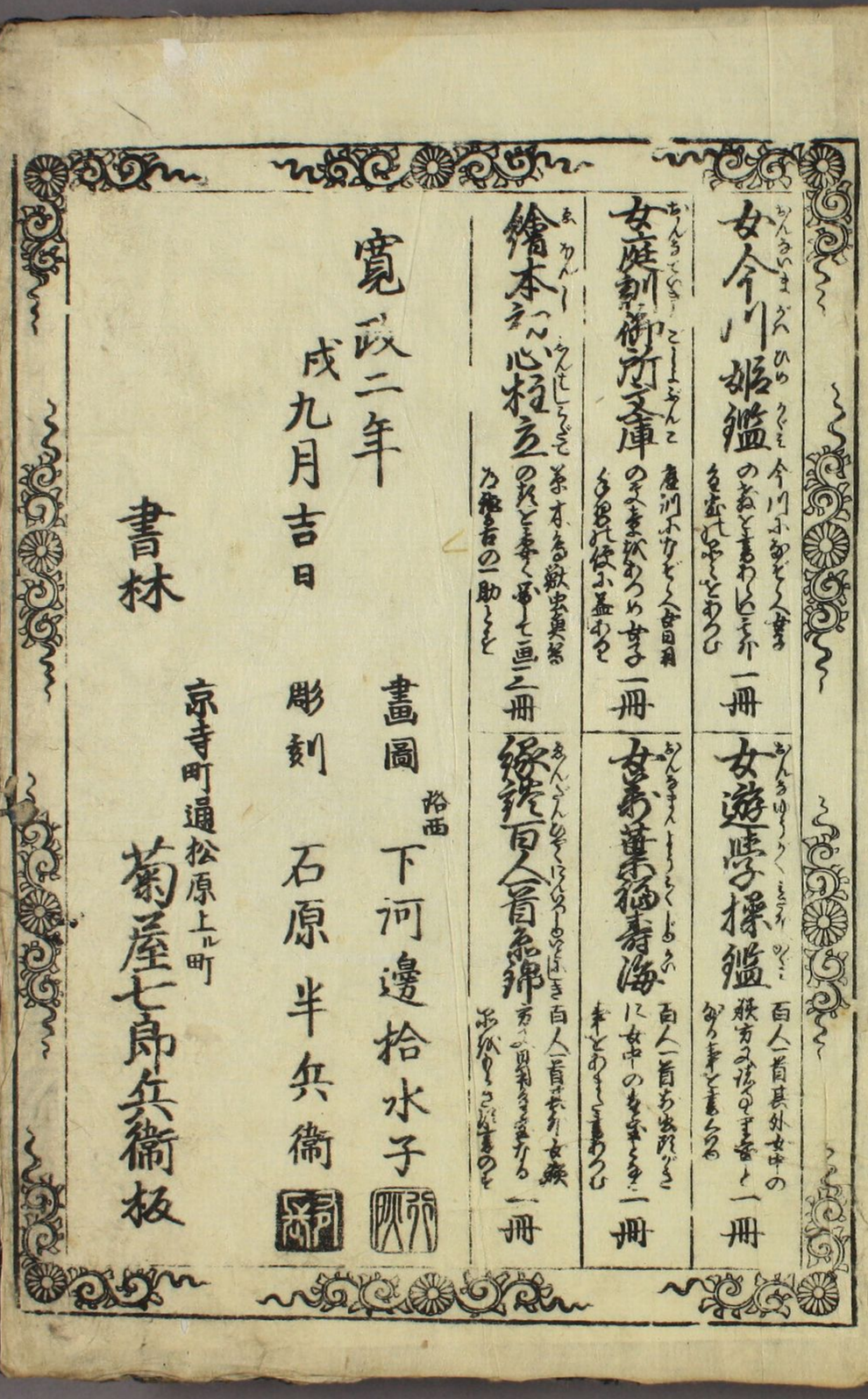
人まえをもこゝやこゝるが〜仙
あるそしいふらうふーの
ふをりあり

ぬりこぞれども時たにてこ
ぞ手をまぢ紫のごとく
あつく人ぬぶ人の仏ぶ仙也
らうくいぶらうく中国
ぬぐてひるしこ
臘こる　みらず
中ぼうとの

女中ものしりひのもの

四季紙和歌并月の異名

そそそそのくくく



女今川姫鑑 今川ふみそくの人皆目録のおとまわしとかく 一冊

女庭訓御所文庫 慶川ふみそくの人皆目録のそまぶみあつめ甘る 一冊

繪本心柱立 茶才名歌出典等多見れ使ふ益あり

女遊學操鑑 百人一首其外女中の稽古のまぶみ 一冊

女茶葉稲寿海 百人一首あ出ぶくに女中の茶事とまぶみ 一冊

縁結百人首糸綿 百人一首ぶくに女中の縁結びのまぶみ 一冊

寛政二年
戌九月吉日

書林

京寺町通松原上ル町
菊屋七郎兵衛板

畫圖 拾西 下河邊拾水子

彫刻 石原半兵衛